



2つの名刹と中山道御嶽宿をじっくりと ゆったり御嶽宿あるき



御嶽宿のシンボルとも言える願興寺、京都竜安寺の石庭のもとになった臥竜石庭が美しい愚溪寺、中山道沿いに古い建物が残る御嶽宿をめぐるコースです。一つひとつの見どころが奥深く、じっくり、ゆったり楽しんでいただきたい御嶽宿周辺散歩のおすすめコースです。(距離約2.4km)

① 愚溪寺(ぐけいじ)

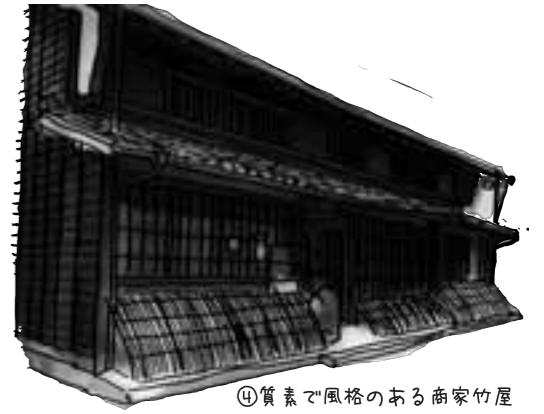
愚溪寺は、臨済宗妙心寺派の寺院で山号は大智山、応永35年(1428)妙心寺第5世の義天玄承(ぎてんげんしょう)によって開山されたのが始まりとされ、美濃国守護代の斎藤利永が寺領を寄進し庇護した事で隆盛しました。義天玄承が「臥竜」と名付けた見事な庭は、京都の竜安寺の石庭の原型になったとも言われています。愚溪寺西側に建つ二重塔は、万延元年(1860)に美濃の匠「野村奎頭作十郎国均」の設計によるものです。



① 見ごたえのある、愚溪寺の庭

④ 中山道御嶽宿商家竹屋

大矢来のあるこの家は、豪商であった竹屋で御嶽町指定有形文化財に指定されています。平成15年に「中山道御嶽宿商家竹屋」として御嶽宿の資料館になりました。明治10年ごろの建築で江戸時代の様式を色濃く残す建物として商家のつくりや機能を解りやすく見ることが出来ます。商家竹屋は本陣の野呂家の分家が経営していたものです。



④ 質素で風格のある商家竹屋

② 願興寺(がんこうじ)

天台宗の寺院で山号は大寺山。弘仁6年(815)最澄(伝教大師)が東国巡錫の折、人々の苦しんでいるのを見て、この地に布施屋(施薬院)を開創し、薬師如来を祀ったのが起源とされています。通称を蟹薬師と言い、これは、正暦4年(993)、一条天皇の皇女とされる行智尼(ぎょうち)が薬師如来を朝夕に拝んでいたところ、南西にある尼が池から数干という沢蟹の背に乗った一寸八分の金色の尊像が現れたという逸話によるものです。このことが天聴に達し、勅命によって七堂伽藍が建立されました。

現在、本堂、本尊薬師如来、日光月光両脇持、四天王像、十二神将、釈迦如来三像、阿弥陀如来立像、坐像の24体が国指定の重要文化財になっています。



② 寺紋は菊と蟹牡丹の願興寺

ここからスタート

東濃信用金庫

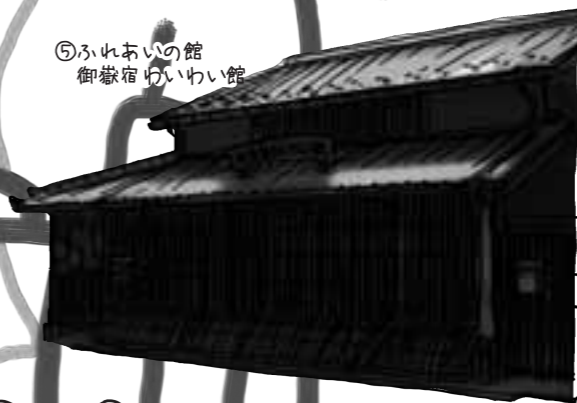
名鉄広見線

御嶽駅

⑤ ふれあいの館 御嶽宿わいわい館

⑤ 御嶽宿わいわい館

宿場のおもてなしと交流の拠点としてオープンしました。町内の菓子店の和菓子とお茶などのもてなしが無料で受けられるほか、地域の物産なども販売しています。イベントも随時開かれており、御嶽宿名物の華ずしづくりが人気です。みたけ華ずしは、願興寺の寺紋の「ぼたん」と、お隣の可児市の花であるバラ、皇女和宮の歌にちなんだもみじなどを太巻き寿司にしたもので御嶽町の新たな郷土食として普及するように地元の主婦の皆さんが提案しました。



③ 中山道みたけ館

1階は図書館で2階が郷土を紹介する郷土館になっています。郷土館では、この地域の先史時代から現代までを歴史の流れに沿って展示、解説しています。弘仁6年(815)に建立された願興寺をはじめとした古代寺院の建立と古代の道「東山道」、隆盛を極めた江戸時代の御嶽宿、隠れキリシタンや垂炭坑の紹介など興味深く見ることができます。



③ 御嶽町の郷土資料が揃う中山道みたけ館

⑥ 御嶽宿さんさん広場

さんさん広場の足癒(あしゆ)は、ソーラー発電で電力を供給して足元を暖める仕組みです。足元に敷かれた直径15mmほどのセラミックボールを布団乾燥機の仕組みを利用して暖めることで、靴下のままでも足を暖めることができます。



⑥ 最後に御嶽宿さんさん広場の足癒の足湯を体験

企画: 中山道案内人倶楽部
制作: 中山道ぎふ17宿歩き旅事務局
(日本イベント企画株式会社内)



歩き旅